

能登半島地震に係る職員派遣について

能登町における総括支援チーム勤務所感



鳳珠（ほうす）郡能登町

人口 14,542人
(令和6年9月1日住基人口)

面積 273.27平方キロメートル

令和6年9月20日（金）
滋賀県知事公室
防災危機管理局原子力防災室
参事 奈須野 哲

◆ 説明項目

➤ 能登町での勤務

➤ 支援業務全般 ①～④

➤ 勤務環境

➤ 総括所見



能登町役場

◆ 能登町での勤務

○ 総括支援チームとして勤務 ※応急対策職員派遣制度（総務省）による。

「総括支援チーム」



災害対策本部会議への出席

- ① **役割** 被災市区町村の長の指揮の下で、被災市区町村が行う災害マネジメントを総括的に支援
被災市区町村の長への助言、幹部職員との調整、被災市区町村の被害状況や応援職員のニーズ把握、被災都道府県をはじめとする関係機関及び総務省との連携など

総務省HP抜粋

○ 対口支援県業務の総合調整

対口支援県：岩手県、宮城県、茨城県、滋賀県、和歌山県

主な支援内容：避難所運営支援、物資支援、

罹災証明等受付、住家被害認定調査

○ 滋賀県派遣期間

令和6年1月3日（水）～5月31日（金） 150日間、延べ83人派遣

◆ 支援業務全般①

担当者未定・不在

状 況

- 非常時の業務のため、担当者が決まっていない。
- 複数掛け持ちで、現場に出ておりつかまらない。
- 関係する部署の課長等との直接調整。

考 察

- ✓ 各課長が様々な業務全てを背負う。結果的に業務は遅延。
- ✓ 非常時業務を想定し担当を明確化。
- ✓ さらに支援要員の誰もがわかるように表示。



能登町役場 1階

◆ 支援業務全般②

業務はその都度調整

状 況

- 感覚的な指示、〇〇が大変そうだから・・・。
- 出たところ勝負。結果オーライ。
- 業務の節目を捉えたミーティング、個別調整が必要。

考 察

- ✓ 支援要員・組織の力量、熱量に左右。
- ✓ 支援要員に**依頼する業務をあらかじめ精査し準備。**
(ロードマップの骨子を準備)



柳田体育館でのミーティング

◆ 支援業務全般③

多数の関係機関、団体等が災害対応（応援）に参画

状 況

- 想像以上、予想以上に多数の機関、団体がコミット。
- それぞれの力を結集できていたか懸念。

考 察

- ✓ どの機関に、何を期待するか。どのセクションが対応するか。
- ✓ 窓口となる機関を定めることで、支援集団との連携強化。
- ✓ 国、関係機関・団体等の役割を理解、期待事項を整理。



◆ 支援業務全般④

強力なプッシュ型支援

状 況

- 1月4日 食料（パン等）到着。
- 1月7日 物資が物資集積所（柳田体育館）に満載。

考 察

- ✓ 物資の供給速度は速い（加速度的）。
- ✓ 目詰まりを起こさないよう、**物資輸送等の枠組み整備は、当初から十分に配慮。**



柳田体育館



柳田体育館

◆ 勤務環境

受入環境の混乱

状 況

- リエゾン勤務場所で町の災害対策会議を開催。
- 議会議場はミーティング会場、議会会議室はリエゾン仮眠所。
- 到着した団体、機関は、廊下等の空きスペースを見つけて活動。

考 察

✓ 男女とも活躍できる受入態勢をあらかじめ準備。

リエゾン勤務場所

議会議場

議会会議室



◆ 総括所見

被災状況のなか、職員全ての勤務は極めて困難と予測



現 実 他の団体、機関等の支援を得て、災害対応

受援対象業務の整理

- ・ 支援要員に依頼する業務をあらかじめ精査
- ・ どの機関に、何を期待し、どのセクションが対応するか

応援職員等受入環境の確保

- ・ 応援職員は自己完結の意識で来るが、、、